

スクールカウンセラー通信

③④

平成27年7月号

スクールカウンセラー 石山宏央 (文責)



最近やさしい虐待、きれいな虐待ということばがあるようです。そこで今回は、「やさしい虐待」と「きれいな虐待」をとりあげてみました。

1 「やさしい虐待」「きれいな虐待」とは？

「やさしい虐待」とは、「勉強しなさい」「お風呂に入りなさい」という日常的な行動を親から何度も命令されるため、気が削がれ、無気力、不登校になる状態のこと。

「きれいな虐待」とは、子どもが親から愚痴、人の悪口を聞かされ、愚痴のゴミ箱になっている状態のこと。この虐待が原因で、万引き行為なども誘発されるようです。

親としてはしっかり躾けたつもりなのに、「なぜわが子が不登校に、犯罪に？」と不可解きわまりないことでしょう。このような行為は今に始まったことではありません。我々ベビーブームの頃も当たり前のように行われていました。しかし、その頃の子どもにとって、学校に行かないという選択肢はありえず、倫理感が強かったこともあって、表面化することはありませんでした。

つまり過去からずっとこの虐待は存在し、子どもの心に深い傷を残してきています。今の子どもたちは比較的自由的な思考を持ち、素直に考えられるからこそ、より正直に**心のSOS**を出せるのです。

2 認められること、尊重されること



人は認められ、尊重されることで、自分がこの世にいることを感じ、心が元気になります。ところが「～しなさい」と命令される生活が続くと、自分の心の居場所を失ってしまいます。

特に幼いときは、親に認められることが自分の存在を知る唯一の方法であるため、その親に認められるよう**必死に努力**を重ねます。ところが努力しても何の報酬も受け取れないとき、もはや子どもの心は砕け、我を失ってしまうのです。

そうならぬとお、親は「ガンバレ」と発破をかけます。「いや…もう何も残ってないんですけど…」というのが子どもの本音。そんな子どものささやかな嘆きが親には伝わりません。親からの執拗な一押しに、さぞかし苦しい思いをしていることでしょう。



3 負の連鎖を断ち切るために

そんな親に、自身の子ども時代についてたずねると、同じ躾けをされています。そして、躾けられている最中、「もっと自由になりたい」「もっと認められたい」と思っていたと言うのです。自らが過去に不快感をもったにも関わらず、同じことを子どもに繰り返す…。それを**負の連鎖**と言います。

この連鎖はどの虐待にも言えることです。連鎖を断ち切るために、親が**過去の傷を癒す**ことが先決。専門家の手を借りるなり、ワークショップで傷を治すなりして、それからわが子に向き合います。そうすると、子どもの訴えを聞ける自分になり、自らを省みることができるのです。

一度傷を負い、十分な手当てがなされないと、心はなかなか回復しません。「不登校」「引きこもり」だけでなく「対人恐怖症」「人付き合いの苦手からくる婚活疲労者」の中には、この虐待の犠牲者もいます。もう少し虐待に対する世間的認知が進めば「一般的な生き方」を強要しない風潮が広がると思います。



傷を治していない人に、健全な暮らしを求めるのは無理というものです。人には見えない、いろんな傷があるからです。ですから、周囲は「ああしろ、こうしろ」ととやかく言わないで、そっと相手を見守りましょう。「**放っておく**」のも優しさです。

※今月の相談日は7日(火)、13日(月)…午前 21日(火)…午後です。尚、夏休み中相談希望の方は佐々木先生までお知らせ下さい。